

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：31303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00425

研究課題名（和文）19世紀イギリス小説における女性の願望のプロットとテキストの権威の転覆の研究

研究課題名（英文）A Study on the Plots of Female Desire and the Subversion of Texts in the Nineteenth-Century English Novel

研究代表者

鈴木 淳（Suzuki, Jun）

東北工業大学・総合教育センター・教授

研究者番号：10552755

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果については、トマス・ハーディやウィルキー・コリンズ、そしてニューマン作家であるモナ・ケアードなど19世紀の作家による詩および小説テキストの中の、いわゆる「男性中心の物語」の構造に注目することで、その中で、実際にはテキストの中に存在する女性の願望の声によるプロットが男性が語るつとする物語の権威を崩し、結果的に物語の主人公である男性のアイデンティティを揺るがしていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義および社会的意義は、これまで男性主人公の物語を描いているとされてきたテキストの中に存在する「女性の願望」を示す声を中心にしてテキストを読み直すことで、これまで見えてこなかったテキスト構造およびジェンダーの力関係の逆転を読み取ることができることにある。本研究では、全体を通して、センセーション小説の特徴の一つとしての女性の願望によって操作される男性主人公の物語と転覆という構図を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, focusing on some literary works of Thomas Hardy, Wilkie Collins and Mona Caird, I have discussed the subversive power of women's voices showing their desires in the apparently male-centered texts. This study has revealed that, in many cases, the male-centered plots of stories are actually manipulated by female desires and finally subverted by them. Then male authority or identity is problematized and questioned.

研究分野：英文学

キーワード：センセーション小説 女性の願望 ニューウーマン小説 ハーディ コリンズ

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初は、海外ではセンセーション小説に関する重要な研究書が何冊か出版されていたが、国内ではセンセーション小説の研究自体があまりなされていなかった。本研究にも関係する重要な海外の先行研究としては、センセーション小説の特徴として「他者のプロットを操作する女性の願望」について言及した Lyn Pykett の論文がある。本研究では、個々の作家のテキストへのアプローチに関して、主に女性の願望によって主人公男性の物語のプロットが操作され、女性の願望が男性のリアリズムの物語やロマン主義の物語を崩し、そして最後には男性のアイデンティティへの脅威となるということ、代表的なセンセーション小説作家、そしてその流れを汲むニューウーマン小説作家のテキストを取り上げて考察した。

<引用文献> Pykett, Lyn. "Sensation and the fantastic in the Victorian novel." *The Cambridge Companion to the Victorian Novel*, edited by Deirdre David, Cambridge University Press, 2001, pp. 192-211.

### 2. 研究の目的

これまで男性中心とされてきたリアリズム小説テキストの権威の崩壊とセンセーション小説の関係を女性の願望によるプロットの操作と男性の物語の権威の転覆という観点から考察することで、ジャンルの定義の問題として、センセーション小説の新たな特徴を明らかにする。また、男性のロマン主義の願望を語る詩や小説テキストにおいても、そのテキストの構造が実際にはテキスト内部に存在する女性の願望による新たなプロットによって崩されていることを確認する。

### 3. 研究の方法

(1) 男性の視点から書かれたハーディの詩のなかの女性の声に注目し、幽霊として登場する女性の声が男性の語るロマン主義の詩の世界に対して与える影響を考察した。

(2) コリンズの小説について、従来のジェントルマンの伝記的な成長物語を描くテキストのなかの女性の願望や他者の願望の物語のプロットを見つけ出し、それらが実はテキスト表面のジェントルマンの物語を操作していることを明らかにした。その際、ロンドンと郊外という二つの場所に注目して、それぞれの場所とナラティブの主導権についても考察した。

(3) ハーディの初期の小説について、ダーウィンの性選択の理論を援用して、テキストにおいては男性たちに対して女性主導の性選択が行われているのではないかと仮定し、考察を行った。また、ハーディの後期小説について、ロマン主義の物語を語ろうとする主人公に対して、テキストに存在する、他の女性の願望の物語とその影響について考察した。

(4) ニューウーマン小説作家であるモナ・ケアードの短編を取り上げ、そのなかでは従来の男女間の結婚をゴールとする伝統的な小説の終わり方がどのように崩されているかを優生学的視点からの男性の語りとの関係で考察した。

### 4. 研究成果

(1) ハーディの詩について、ロマン主義の過去の美しい物語を描こうとする男性の語り、実際には年老いた女性の幽霊の声にその物語を破壊されていることを明らかにした。最後には、語り手である男性が周りからは狂気として見られていることを提示することで、その男性が語るロマン主義の詩の権威も失われるという結論になった。この研究については、学会シンポジウムで口頭発表し、その後大学紀要に論文として掲載した。

(2) コリンズの小説について、ロンドンの男性ジェントルマンの語り手の物語が、郊外においては女性の願望の物語やライバル男性の復讐の物語によって主導権を奪われ、最後にはロンドンのジェントルマンのアイデンティティや、さらには、家庭の天使の役割についても疑問に付されることを明らかにした。この研究については、オンラインで行われた研究会のシンポジウムで口頭発表し、論文として研究会誌に掲載した。

(3) ハーディの初期小説および後期小説の研究については、それぞれダーウィンの性選択の理論、そしてロマン主義の詩と関連付けながら、男性の物語を描くテキストの中の女性の願望の物語のプロットという観点からテーマの考察を行った。今後、研究成果を論文として発表する予定である。

(4)ニューウーマン小説作家の一人であるモナ・ケアードの短編についての考察を行い、それを大学紀要に論文として掲載した。論文では、男性の語り手の優生学的な考えに基づいた伝統的な男女間の結婚のプロットが、当時の女性像から逸脱したヒロインの新たな自由恋愛という考えによって崩されていることを明らかにした。

今回行った研究については、女性の願望という一つの観点から複数の小説についての研究を行い、成果を出すことができたという点で、ジャンルとしてのセンセーション小説の定義の問題に関して大きな意義があったのではないと思われる。また、ロマン主義の世界を描く男性の語り手を崩す年老いた女性の幽霊の声については、ロマン主義の語りの特徴を考えるうえで、他の作家のテキストにも応用できる視点ではないと思われる。今後の研究では、女性の願望という視点を中心として、さらなるテーマと結び付けてセンセーション小説の特徴を探っていく予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 鈴木 淳	4. 巻 第41号
2. 論文標題 語る妻の幽霊 ハーディのエレジーのなかの女性の声と転覆	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北工業大学紀要	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 淳	4. 巻 第9号
2. 論文標題 欲望の場としての郊外 『バジル』におけるコリンズのヴィクトリア朝小説の伝統的手法への挑戦	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北ロマン主義研究	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 淳	4. 巻 第43号
2. 論文標題 "The Yellow Drawing Room" 試論 崩された語り手の求婚のプロットに見るケアードの政治的見解	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東北工業大学紀要	6. 最初と最後の頁 117-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木 淳
2. 発表標題 欲望の場としての郊外 『バジル』におけるセンセーション
3. 学会等名 第16回東北ロマン主義文学・文化研究会（オンライン・シンポジウム）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木 淳
2. 発表標題 「語る妻の幽霊 ハーディのエレジーのなかの女性の声と転覆」
3. 学会等名 日本英文学会東北支部第74回大会シンポジウム英米文学部門「英米文学のなかの女性の声を再考する」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------